

〈連載〉

活躍する

女性診断士の

素顔

第2回

油井文江さん

あります。職場や社会環境において女性がメインではなくサブであるようなあり方や、家庭生活の中での役割の不自由さ。そういった制約から解き放たれたいという欲求がみえます。女性として養われる立場でいるのではなく、自分で道を切り開きたいという自立志向や自己実現志向の人にとって、会社での「ガラスの天井」や「家事は女性」といった仕組みは、生きにくい制約となって現れるのですね。

また、女性の仕事の選択肢の少なさもあります。女性に対する年齢制限の強さや、主婦を経て臨む求職活動の困難さなどは、多くの女性が

いま、なぜ女性診断士が独立するのか

久保 有子

中小企業診断士

中小企業診断士として独立し、活躍している女性の素顔に迫るこの連載。第2回は、女性診断士の会 Ami ほか複数の組織の代表を務め、女性支援や国際的活動で活躍する油井文江さんへのインタビューである。

インタビュー終了後、独立女性診断士に対して持っていた疑問がすっきりと晴れ、社会で働くリアルな存在として、女性の中小企業診断士の姿をとらえることができるようになった。

●女性診断士として働くという選択●

久保 女性が独立という勇気ある決断をする背景には、男性とは違う特有の理由があるといえるのでしょうか。

油井 中小企業診断士に限らず、すべての女性起業家にいえることとして、まず、さまざまな制約から自由になれる働き方を探すということが

直面する現実です。それならば、自営業で開業するか資格を取って独立しようという女性も出てきます。実は私もそうでした。

診断士に限っていうならば、試験科目からみて、男性よりも女性にとってより難しいといえる中小企業診断士の試験にチャレンジし、合格を勝ち取るだけの女性には、独特の意思や個性がうかがえます。潜在的に独立心旺盛な女性が多い業界といえそうです。

久保 女性起業家の状況を、何年にもわたってみてこられた油井さんならではの意見ですね。中小企業診断士として活動する中で、女性だから有利という点はあるのでしょうか。

油井 男性と比較して数が少ないという希少性は有利に働くでしょう。中小企業診断士の会合に限らず、まだまだ経済・経営の分野は男性が圧倒的に多いため、どこに行っても目立ち、すぐに覚えてもらえますからね。

仕事に関していうと、いま、経済の中心が第

三次産業にシフトしてきています。重厚長大型産業で発展してきた時代は、製造業に強い男性の活動フィールドが大きかった。でも、産業のソフト化が起り、消費の繊細なニーズを追うマーケティングなどに企業の関心が移ってきたいまは、女性が得意な分野も多くなってきました。

久保 経済だけではなく、社会全体の変化も、女性診断士を後押ししているようにみえます。

油井 はい。社会的な課題の変化も、女性診断士にとっては有利な要素です。環境・育児・教育・医療や人間の生活の豊かさ、地域社会のコミュニケーションといった、これまでは経済の周縁であった事柄が、経済・社会の前面に浮上してきました。欧米で確立した社会的起業（ソーシャルビジネス）が日本でも盛んであるのは、その一例でしょう。

女性診断士は、先頭に立ってこうした分野でのコンサルティングを担っていけると考えています。もちろん、こうした分野にも男性診断士が多く関わり、男女の区別なく活躍できるように早くなってほしいと願います。

久保 では逆に、女性だからというネガティブな経験をしたことはありますか。

油井 うーん、ないと言いたいところですが、残念ながら…クライアントを訪れて初めて面談する際、相手の「えっ、女性だったの」というリアクションを感じる場合があります。特に業務の扱い高が大きい場合に多いです。コンサルタント、特に大きな仕事であれば男性という先入観があるのでしょうか。それに対してこちらは、俄然「がんばるぞ」と思いますけどね（笑）。

久保 その前向きさが重要ですね。さて、いつも素敵な油井さんですが、人と接するとき、気をつけていることはありますか。

油井 素敵だと言ってもらえるのはうれしいこと

ですが、本人は特に心当たりがないです（笑）。ファッションには、あまり時間を割いていませんし。ビジネス系のスーツを身につけ、華美にならぬよう心がけることくらいでしょうか。

私がいつも意識しているのは、「相手のことを考えての振る舞い」です。まずは元気に見えること。体調の悪そうな人に相談なんてしにくいと思いませんか。こちらのモードが低調なときは、相手に伝わらないように配慮します。たとえば、徹夜明けにはドリンク剤、目の下にクマができていたらファンデーションで隠す、疲れているときほど姿勢をよくして、明るい声を出すなどです。目力にも気をつけたりして。

●女性診断士の可能性●

久保 油井さんの話に説得力があるのも、目力効果なのかもしれませんね（笑）。さて今後、女性診断士の仕事の広がりとして、どのような分野が考えられるでしょうか。

油井 ひとつは、女性の起業・ビジネス支援の分野です。同じ女性の目線に立っての適切なコンサルティングが必要とされています。男性コンサルタントは女性事業家の感性や事業サイズをキャッチできない傾向があります。

それから海外、特にアジア市場での経営支援分野です。現地では産業のハード分野はもちろんですが、経営ソフトの不足が目立ちます。マ



ーケティングをはじめ、組織マネジメントや人材育成のニーズもあり、女性がコンサルタントとして入っていきやすいところです。

女性が国情の違う地域で、場合によっては長期間働くことのバリアは、国内業務での障害以上に大きいものです。それにもめげず、女性診断士の中にこうした課題にチャレンジする人が増えていることは心強いですね。

これからの分野としては、社会的起業やNPOの支援も広がるでしょう。プロボノ（自分の職能を活かして無償で社会貢献を行うこと）だけでなく、コンサルティング事業として成長させていける分野と考えています。

●女性診断士の組織と交流●

久保 いつもさまざまな組織の中心にいる油井さんですが、現在はどうのような活動に関わっていらっしゃるんですか。

油井 診断士になって最初に組織し、いまも代表をしているのが「エルズ」という女性支援のグループです。同期に登録した女性診断士5人で設立し、社会の中での女性の働きにくさを解消しようと活動しています。

このエルズが運営を担当している「ダイバーシティ研究会」の代表も務めています。中小企業診断士以外からのメンバーも得て、ダイバーシティ（多様な人材の活用、多様な働き方）を中小企業で取り入れる研究に取り組んでいます。

中小企業診断協会東京支部の研究会では、社会的起業を支援する「ソーシャルビジネス研究会」に副代表として関わっています。また、「女性のビジネス支援マスターコース」を主宰しています。このマスターコースは、女性の創業を支援できるコンサルタントを育てようという趣旨で、2005年に始めました。受講者は当初男性が5割程度と多かったのですが、今年は逆

に7割が女性でした。女性のビジネス支援をしたいという積極的な女性診断士が増えてきたのはうれしいことです。

海外向けの活動としては、(株)ワールド・ビジネス・アソシエーツの役員をしています。海外への人材派遣や国際的業務のコンサルタント活動を行う会社です。ここ2～3年で、海外で活躍する女性の割合が飛躍的に増えてきたことを目の当たりにしています。

こんなにたくさん活動に関わっていて、よくパンクしないねといわれますが、一緒に動くメンバーや事務局が優秀で、任せられる診断士の仲間がいるから充分回せます。

久保 信頼して任せられる人材が集まってくるのも、油井さんの人柄があればこそだと思います。油井さんがもう1つ代表をされている女性診断士の会 Ami は、今年20周年を迎えたそうですが、その会の活動についてお聞かせください。

油井 女性診断士の会 Ami は、女性診断士が中心となって運営している中小企業診断協会東京支部の懇話会です。幹事は女性のみですが、例会への男性の参加は大歓迎であり、毎回多くの出席をいただいています。

実は、最初にこの会を知ったときは、会の名前に「女性」と付くことに引っかかりを感じました。でも、女性を「逆意識」する集まりではないとわかったことと、女性ならではの啓発機会の有効性に気づき、幹事を経ていまは代表を務めています。

Ami は、女性のネットワーク構築のプラットフォームです。活動を通じて多くの女性診断士と情報交換し、人脈づくりができる。男性にも積極的に参加してもらって、一緒にどういう仕事をつくっていくか、ひいては社会をつくっていくかを考えられればいいと思います。

Ami は今年20周年を迎えました。会の発足当

時から女性診断士として活躍していた先輩方のお力も借りて、有意義な年にしたいと思っています。

久保 関西の女性診断士たちとも交流があるそうですね。

油井 大阪で女性診断士の会「ピザの会」を主宰されている北口祐規子さんと以前からお話をする機会がありました。昨年10月に、エルズのメンバー6人で合宿のため奈良に行った折り、ピザの会の有志8人と大阪で交流会をしました。短い時間でしたが、大歓迎を受けてとても楽しく、また多くの励ましをいただきました。大阪の女性診断士のお心遣いに感謝しています。

関西の女性診断士も、活動内容は東京と同じです。仕事の難しさや制約もほぼ同じ。女性支援のボランティアワークの悩みも共通していました。関西は東京と比べると女性診断士が少ないのが制約だそうですが、「ビジネスプランコンテスト」を6年間続けるなど、素晴らしい活動をされています。お互い、できることをできる限りやる姿勢で取り組んでいこうと励まし合いました。

●後輩へのアドバイス●

久保 東西の女性診断士の交流が持たななくて、いままでなかった画期的なことですね。今後、全国の女性診断士交流の機会もつくっていただければいいですね。では最後に、ご自身の中小企業診断士としての戦略と、後輩へのアドバイスをお願いします。

油井 最初は戦略もなく独立し、仕事がやれるだけでうれしくて何でもやったというのが正直なところです。その結果、3年目にハードワークで軽い鬱状態となり、その後1年間ほど精神的に停滞しました。そこで初めて仕事を整理して、自分の仕事のドメインを女性分野に決めるとい



う、いわゆる戦略を立てたわけです。

現在は、社会のニーズに 대응して、仕事の柱をワークライフバランス・ダイバーシティ・女性の起業とビジネス支援に置いています。こうした仕事分野では新しい概念構築なども必要で、一つひとつにじっくり取り組まなければなりません。私の場合は、この分野と仕事スタイルが合っているようです。勉強して納得し、そのアウトプットが仕事になればいいというスタンスでいます。

皆さんも、仕事に取り組む中で、おのずと整理できる時期が必ずきます。まわりをみて社会をみて、自分がやりたい仕事、できる仕事を精いっぱいやる。すると、自分がやったことに対するお返しが必ずあります。

久保 油井さん、どうもありがとうございました。

*

いま、なぜまわりで独立する女性診断士が多いのか、その答えのひとつがみえてきた気がする。それは、油井さんをはじめとする頼もしい先輩方が活躍のフィールドを拓いているからである。すでに実績を築いてくれているからこそ、次に続きやすい環境になっている。そしてそれは、社会が求めている流れでもある。女性診断士が必要とされる時代が来ているのだ。